



砂田遺跡・山本遺跡の位置「国土地理院 2013 年撮影の航空写真」に加筆

1. はじめに

砂田遺跡の調査が始まって 2 ヶ月が経ちました。台風や秋雨に見舞われましたが、発掘調査は着々と進んでいます。今月号では、砂田遺跡と同じ県営湛水防除事業に伴って発掘調査を実施した山本遺跡についても報告します。

なお、この「発掘調査だより」は市ホームページ

(<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>) にも公開しています。合わせてご覧ください。

2. 砂田遺跡の調査のようす

【平安時代】

調査区中央では、土師器の碗などの土器がたくさん出土する大きな穴が 3 か所見つかりました（写真 1・2）。土師器碗の内側はいぶされて黒くなっているものが多いようです。平安時代の遺跡では、このように大量の碗などが出土する穴がしばしば見つかります。碗は、当時の宴会に用いられた食膳具です。有力者たちは盛んに宴会を催し、大量の食膳具を使用して、廃棄しました。砂田遺跡から見つかった穴も、宴会後のゴミ捨て場かもしれません。



写真 1 内側がいぶされた土師器碗



写真 2 作業風景

【室町時代】

昨年の調査で見つかった「火葬土坑」と似た遺構が、調査区中央付近で2か所見つかりました（写真3）。昨年見つかった火葬土坑は、火葬後の拾骨が行われず、部位が特定できるほど人骨が残っていました。ところが今回見つかった1か所には、骨はほとんど残っていませんでした。その一方で、刀子（とうす：小刀）や古銭が出土しました。古銭は6枚が重なっています（写真4）。残念ながら表面が火を受けているため、古銭の種類を判別することはできませんが、重なった6枚をはがせば種類が特定できるかもしれません。

刀子は火葬された人物の持ち物であったのかもしれませんが、また、6枚の古銭はいわゆる三途の川の渡し賃である「六文銭」の風習で納められたものかもしれません。いずれにしても、昨年見つかった火葬土坑とは特徴が違うようです。



写真3 火葬土坑



写真4 出土した古銭

3. 山本遺跡のようす

山本遺跡は山本新集落の北東に位置する縄文時代の遺跡です。10月16日～11月10日に発掘調査を実施しました。

遺跡では、南西～北東に伸びる溝、性格がわからない土坑のほか小さな柱穴と思われるピットなどが見つかりました。縄文土器のほか平安時代の土師器も出土しています。縄文土器は細かな破片が多く詳細な時期は不明ですが、おそらく後期～晩期（約4,000～2,500年前）のものと思われます。

山本遺跡では石器などの狩猟具が見つかりませんでした。また、住居跡も明らかではありません。このことから、人びとが長期間暮らした場所ではなかったと思われます。今後、整理作業のなかで詳しく調べていきたいと思います。



写真5 全体写真（西から）



写真6 出土した縄文土器